

とりわけ私にその感情を呼び起こさせたのは、地球を取り巻く大気の薄さでした。

問題文をじっくり見てみると、全体的に、「大気の薄さ」を強調しているために、

▪ **it is A that (S)(V) 「(S)(V)するのは A だ」**

で表す、いわゆる強調構文が使えるそうです。が、もし、「とりわけ」を **above all** で表せるのであれば、わざわざこの構文を使う必要はなさそうですね。ここでは、**above all** で攻めることにします。

また、「～呼び起こさせたのは…大気の薄さでした」の、強調構文的な部分の日本語を抜いて整理すると、「大気の薄さが感情を呼び起こさせた」が中心になると思いますが、それでも、日本語の構造を反映させた形で訳出することが、多少難しいなあと思ってしまいました。

こんな時に時々使えるのが、**一つの出来事・状態を二つの出来事・状態に分ける**という技術です。1文の中に含まれるイメージを膨らませて、文の中心である述語になりそうな、2つの出来事を探して、実際に二つの文で表します。

そうすると【何かを思っている】感じと、【大気の薄さ】が浮かんできました。この2つは意味的に、【大気の薄さ】が原因で【何かを思っている】感じになっています。なのでそれぞれ2つを英語で表した後、【大気の薄さ】を原因とし、**because (S)(V)の(S)(V)**に入れて【何かを思っている】につなげることにします。

A. 【大気の薄さ】

文レベルで表すんですよね。なので、まずは述語です。

・ S is thin 「Sは薄い」

が使えるそうです。【薄いもの】である **S** には、端的には「大気」が入りません。「地球を取り巻く大気」は、世の中に一つしかありません。読み手が特定できそうなので **the air** にして **S** に入れます。

(1) the air is thin

最後に、これは【事実】なので、現在形でもいけそうな気がしますが、【当時薄かったこと】を表に出したいと思い、過去形で表すことにしました。

(2) the air was thin

B. 【何かを思っている】

ここも、まずは述語です。【何かを思っている】イメージを表す中心である、問題文中の「感情」から、**feel** が浮かびやすいかもしれません。

▪ S feel A 「SはAを感じる」

ですが、いわゆる第2文系の用法の一つは、**S**に【感じる人】をいれ、**A**に【どんな感じなのか】を表す形容詞を入れるというものです。【感じる人】は、【私】なので、**I**を使います。【どんな感じなのか】は、**happy** や **sad** のような表現を入れますが、「その感情」の「その」から、【その前までに書かれたように感じ】を表す必要があります。思いつくのは難しいかもしれませんが、このような時、**this way** を使います。

(3) I feel this way

最後に、【今】も感じているわけではありません。【宇宙にいるとき】に感じることなので、【過去】を入れ込みます。

(4) I felt this way

C. A. + B.

予定通り、

- **because (S)(V)**

の(S)(V)に(2) **the air is thin** を入れ、

(5) **because the air is thin**

これを、(4) **I felt this way** につなげます。

(6) **I felt this way because the air is thin.**

この時点で、英文に表せてない箇所を確認します。

とりわけ

予定通り、**above all** で表します。文頭に置いても、強調したい表現の前にも後ろにも置けますが、ここでは、文頭に置きます。文頭に置くときにはカンマで区切ることが多いのでそのようにしました。

(7) **Above all, I felt this way because the air is thin.**

呼び起こさせた

【**薄さ**】が【**原因**】で【**このように感じた**】のであれば、もう「呼び起こさせた」は表現されていると考えられます。なので訳出しません。

地球を取り巻く

これは表せていませんね。「大気」である **the air** を修飾しているので、ここでは関係詞節として表してもいいのですが、**DOING** の形で名詞を修飾することもできますよね。今回はそれをを用います。

中心は述語部分です。「取り巻く」から、

▪ S surround A 「SはAを取り巻く」

を使うことにします。【取り巻かれる中心】である **A** は「地球」ですね。2回目なので、**it** にすべきですが、それまでに単数の名詞が並んでいるので、誤解しないように代名詞にしないで **the Earth** をそのまま使うことにしました。最後に **surround** を **DOING** の形にしました。

(8) surrounding the Earth

そしてこれを修飾される側である **the air** の隣に置きます。2語以上なので後ろにます。

(9) Above all, I felt this way because the air surrounding the Earth was thin.

Model Answer

Above all, I felt this way because the air surrounding the Earth was thin.